

◆タブレット端末の導入により社内の意思決定を迅速化するとともに、営業担当職員の事務作業を軽減し、お客様に更なるサービスを提供。

・タブレット端末500台を導入し、ペーパーレス会議の導入や管理職社員承認を電子化するとともに、営業担当職員の事務作業が効率化されることにお客さまへの更なる質の高いサービスを提供。

（きっかけ）
取り組み前

迅速な意思決定や業務の効率化が遅れていた

- ✓ 電力・ガスの小売り自由化により競争が激しくなり、従来以上にスピード感を持った事業展開が必要になっていた。
- ✓ 管理職社員の出張等により決裁等がストップするなど迅速な意思決定が行えていなかった。また、会議用の資料準備等に多くの時間を費やしていた。
- ✓ 営業担当職員は、帰社後事務処理を行わねばならず、時間外労働が避けられなかった。

取り組み後（効果）

意思決定の迅速化と業務の効率化

- ✓ 出張先でも決裁手続きが可能となり意思決定が迅速化するとともに、ペーパーレス会議では資料を準備する社員の負担が大幅に軽減された。
- ✓ お客さま情報が記された文書や料金プランごとのカタログなど大量の書類を持ち歩く負担がなくなり、契約手続きや料金設定の説明などにもタブレットを使用。自社商品やサービスの内容もタブレットを使用し、動画で紹介するなどお客さまサービスの向上につながっている。
- ✓ タブレット端末の導入により、グループ全体で年間1万8千時間分の業務時間の削減を達成。
- ✓ 平成29年11月静岡労働局ベストプラクティス企業に選定。

取組内容や仕組み

ペーパーレス会議や電子承認システムの導入

- ✓ 迅速な意思決定や業務効率化のため、2016年6月までにタブレット端末500台を導入。
- ✓ ペーパーレス会議は、紙の削減だけでなく、資料を作成する労力も減って効率的な仕事が可能となった。
- ✓ 社内決裁は、部長承認の段階までペーパーレスの電子決裁で行うこととした。
- ✓ 営業担当は、電子カタログ等により様々な書類やカタログを持たずにお客様を訪問することができるようになるとともにサービスの向上につながった。
- ✓ 営業担当は訪問先からのお客さまの情報を直接入力処理することにより、帰社してからの業務を大幅に削減した。

働き方改革に関する見直し検討

- ✓ 平成29年度から部門横断の検討会議を立ち上げ、風土改善・事業部間コミュニケーション促進・業務改善のための検討を開始。
- ✓ 社員が、子育てしながら安心して働き続けられる職場環境の整備を目指して、静岡ガス、静岡銀行及び静岡鉄道の3社共同で「森のほいくえん」を運営。